

カトリックさいたま教区サポートセンター ボランティア活動報告⑬

第36チーム・2011年12月2日(金)～12月5日(月)

■湯本サポートステーション(福島県いわき市)

(通常のボランティアチームの派遣は信徒女性一人のみ。他に、教区サポートセンター・スタッフの3名、計4名)

12月23日(祝・木)に開所予定のいわきサポートステーション「もみの木」の準備をするために、教区サポートセンター・スタッフが派遣された。湯本ステーションに宿泊しながら、現地ではなにが必要なのか、見て聞いて歩いて…の四日間を過ごした。



サポートセンター・スタッフ

金曜日 カフェもみの木 11時半着、来訪者の応接。来訪者は仮設住まい。ひとりの方は6人家族だが、子供は別生活となり、夫婦ふたりだけで暮らしている。ボランティア2名も来訪。

土曜日 UR 都市機構にあるカフェで応接。約10名の方々の来訪あり。仮設住まいの人はゼロ。午前中、いわきステーション「もみの木」のための買出し。夕方、いわき教会に氏家神父を訪問。

日曜日 午前9時に小名浜教会でミサ。ミサ後、ボランティアは湯本ステーションスタッフと被災地見学経由で交流カフェにおもむき、応接。来客は2名のみ。教区サポートセンター・スタッフの3人は買い物に。昨日の家電につづき、ベッドを購入。その後、湯本ステーション2階のふとん整理、物置の片付けなどをした。

月曜日 スタッフは、いわきステーションの掲示板などの買い物をし、浦和に帰る。ボランティアは午前中もみの木カフェで活動した後、帰宅。

午後1時、物資到着。スタッフが仮設住宅に運んだ。

午後3時ごろ、10名近くの人たちがもみの木カフェに来る。喫茶店だと思ったとのこと。

仮設に来た物資を引き取ってほしいという要望があり、午前中に取りに行き、5人で選別・・・が、使えないものが多い。

午後4時からスタッフで、開所式のための備品を買いに行く。夕方8時ごろ帰着。

<報告> 急に野菜を大量に届けられても、交流カフェではさばき切れない。物資を含め、選別されたものだけを送っていただくよう、サポセンで検討したい。



交流カフェ「もみの木」前にて



ログハウス建設・11月15日時点

第37チーム・2011年12月8日(木)～12月13日(月)

■湯本サポートステーション (福島県いわき市)

(信徒女性一人、司祭一人、計2名)

木曜日 10:00 浦和教会に集合、オリエンテーション
11:00 谷司教さまの祝福を受けて出発
14:45 もみの木ステーションで来訪者との面談や展示関連の打ち合わせ
17:00 ステーションで、夕食、入浴

<報告>

- ・ 仮設住まいの方が午後3時ごろ来訪。体験を話してくれた。町の放送で「避難してください」との呼びかけがあったので、ハンドバッグひとつもって避難した。こんなに長くなるとは思わなかった、との話だった。
- ・ 以前マフラーをいただき、とても助かっているとのこと。
- ・ 仮設の風呂に手すりがないので、不便。勝手に取り付けられないので、役所に話している。しかし、すでに1ヶ月が経過しているが対応がないようだ。

金曜日 07:30 朝食

09:00～11:30 送られてきた9箱の衣類を分別

13:00～15:00 いわき教会で傾聴ボランティア
取手教会の信徒の方々(3名)
といわき教会で合流。いわき教会の信徒5名、みみの会の4名と一緒に活動。常駐スタッフはもみの木カフェで奉仕。

15:00 全体で報告会

17:00 ステーションに帰着。入浴、食事



衣類の分別作業

<報告>

- ・ 午前中、衣類の分別を行ったが、送ってくださる方々が分別をしてから送ってくれると助かると思った。
- ・ 仮設住宅では、留守の方や空き室が増えているように感じる。

土曜日 06:15 朝の祈り

07:30 ミサ

08:00 朝食

09:30 交流カフェへ(ボランティアメンバーは、小名浜方面の被災地を巡ってから、もみの木カフェへ)

傾聴

14:30 取手教会のメンバー帰宅

16:00 ステーションへ戻り夕食

<報告>

- ・ 現在まだ被災住宅の取り壊しが続いている
- ・ 小名浜方面でセブン・イレブンが再開
- ・ 取手教会の3名の方が、金・土の傾聴奉仕

日曜日 07:00 朝食

09:00 ミサ

11:00 交流カフェへ 傾聴、物資整理

15:40 内郷公民館で古着分別、処分。

19:00 夕食

<報告>

冬物物資は充足。汚れ、染み、虫食いなどのある衣類を処分するために取り分けたが、事前にチェックしてから送付してもらえると、配布がスムーズにできる。



取り壊される建物